

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400752		
法人名	一般社団法人 日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホーム ゆうか		
所在地	愛知県名古屋市中区西小田井2 - 425		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	平成22年3月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号		
訪問調査日	平成22年1月24日	評価確定日	平成22年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全てのご利用者が、「自分らしい生活」を送って頂くために職員は、常にその方の意思を尊重し、尊敬と敬意の念を持ちながら、お一人お一人に関わらせて頂いております。「買い物へ行きたい」「散歩へ行きたい」「温泉へ行きたい」「喫茶店でコーヒーが飲みたい」「外食がしたい」等、その方がされたいことへの実現と満足をして頂くことをモットーに日々生活を共にさせて頂いております。また、時には、数名の方と外出したり、仲の良いご利用者と外出をしたり、書道や塗り絵・カラオケ・鍋パーティーなど、皆で出来ることもご提供させて頂き、ホスピタリティの精神の基、心のこもった、「おもてなし」と「言葉にされないニーズ」にもお応えしていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症であっても自分より年上の高齢者であることを新人研修から叩き込まれ、「ノーマライゼーションの考え方に基づき、高齢者本人の意思を尊重し、誰もが自立した生活と自己実現が出来る地域福祉の向上」を目指している。「入居者のニーズを感じ取れない者はフロアに立つな」が合言葉であり、職員は常に入居者のつばやきや行動を細大漏らさずチェックし、記録している。入居者が「昼前に散歩に行きたい」と言えば、職員のシフトを調整したり、「NO」と言う前にあらゆる可能性を試している。それには職員の負担も大きく、一時期離職者も出たため、現在は、入居者、家族の希望、職員の数+スキルの3つのバランスを考えた上で取り組んでいる。実現ができない時は、入居者本人や家族に理由をきちんと説明しており、腹を割って本人や家族に話せる関係ができています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ノーマライゼーションの考え方に基づき高齢者本人の意思を尊重し、誰もが自立した生活と自己実現が出来る地域福祉の構築を目指す。」という理念のもとに、地域の一員として地域福祉の向上に努めている。	入居者の言葉に出さないニーズの把握に尽力している。「入居者のニーズを感じ取ることができない者はフロアに立つな」が合言葉で本人の自己決定権を最大限尊重している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への活動として、祭やイベントを開催し、地域の方々に参加して頂いている。また、自治会主催の祭にも積極的に参加している。近隣の小学校の社会見学も受け入れている。	町内会に加入し、今年度は組長を務めた。老人会、町内の祭りなどにも参加している。1階のフロアには子ども達がいつでも寄れる図書室があり、ソフトクリームも楽しめる。集会室は地域に開放され会合に利用されるほか、ホーム主催の和楽器コンサートが行われたりしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を地域の方々と一緒に開催している。参加者としてご利用者が出席することで、「認知症」というものが特別なものではないということを地域の方に理解していただくきっかけになっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で頂いた意見の中には、音楽会や育児サークルの方々による育児のアドバイスや歌の会を開催し、ご利用者や地域の方にも参加して頂いている。	町内会長、提携医の看護師、地域住民、地元学校の教諭、入居者、職員をメンバーとする。入居者が加わることで「認知症」の理解が深まるため、参加してもらっている。外部評価結果の報告、地域の行事についてや防犯、感染症予防等、継続的に話されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者や役職者が必要に応じて、市・区の担当者へ報告と情報共有に努めている。	ホームからは月に1回以上、行政担当者の下に出向き、実情、ケアサービスの取り組みを報告し、必要に応じ情報収集している。地域の清掃を法人として推進しており、行政に「地元以外の公園でも定期的に清掃します」と申し入れたが要請はなかった。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に出入りが出来るようになっている。また、声かけやその他間接的に抑制してしまう行為も身体拘束に繋がるということを、入社時の研修にて指導するようにしている。	玄関は解錠されており、誰でも入れる状況にある。身体拘束への取り組みは重要事項説明書に明記されている。「機械や施錠以外にも言葉による抑制も拘束」と徹底され、「ちょっと待って」「後で」は禁句であり、まずその希望を叶えるよう指導されている。自由な外出を保障するため携帯ナビを利用している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、日々職員間で情報を共有することにより、発生することがないように努めている。また入社時の研修に高齢者虐待防止関連法について学ぶカリキュラムが組まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	金銭管理に関して権利擁護制度を活用されている方がおり、職員は日常的に権利擁護に関し、制度にふれる環境にある。今後は勉強会などを通じて、さらに知識を深める必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	訪問の段階から契約・入居に至るまで同じ職員が関わり、顔なじみの関係作りに力を入れている。また、ご利用者・ご家族の不安解消の為に、じっくり思いを伺い、理解・納得して頂けるように事例を交えてわかり易い説明に心がけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日常の家族連絡を行い、来訪時はもちろん電話や手紙にて交流する事で、ご家族が意見を言いやすい環境作りにつとめている。	以前ホーム便りを毎月作成していたが、人手が足りず現在は休刊している。運営推進会議には家族も参加されるので、家族会も兼ねて今年度は5回開催された。面会時間の制限はなく、家族も頻繁に訪れ要望を述べられる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションを取っている。また、要望を形に残しておく為に、ナイスアイデアボードを設置し、購入の希望や良いと思うアイデアを貼り出し、管理者や担当者が意見をまとめている。	「入居者のニーズを感じ取れないものはフロアに立つな」が合言葉であり、職員は常に入居者のつぶやき、行動に気を配り、連絡ノートにより情報を共有している。それを月1回のフロア会議で計画の見直しにつなげている。気付いたことは「アイデアボード」に誰でも記入でき即座に対応している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の目標を半期毎に設定し、その目標に対しての実績が直接賞与に反映されるようになっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、研修担当が新人・現任研修に携わっている。また、AED取り扱いのDVDを見たり、救命救急講習など外部研修にも参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの職員が集まり、ヒヤリハット報告書や事故報告書の意義について、高齢者に多い事故などを話し合っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から同じ職員が訪問し、顔なじみな関係を築き安心して頂けるようにコミュニケーションをとりながら信頼関係を築いている。また、入居に不安のある方には体験入居という方法も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせがあった段階から入居に至るまでは、何度もご本人・ご家族のもとへ足を運び、直接話を聞き、関係作りにつとめている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者・ご家族の思いを汲み取り、デイサービスのように日中は事業所で過ごし、夜はご自宅で過ごす方もおられた。ご利用者・ご家族と一緒にどのようなサービスが良いか考えている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者から教えて頂くという気持ちを常に忘れず、日々向き合っている。外出や食事の後片付け等、ご一緒させて頂く中でさまざまなことを学ばせて頂き、信頼関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時や電話連絡を行う際に思いや要望を伺っている。ご家族の来訪時間も設けず、いつでも来訪して頂けるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族から今迄の生活歴を伺い、行きつけにしている喫茶店や床屋・美容室などに行けるように支援をしている。	入居前から担当職員が自宅を訪問し、顔馴染みになってもらっている。かかりつけ医の受診もホームで支援している。入居時、ホームに慣れず、朝晩職員が自宅まで送迎し、それを2年間続けて「今日はここへ泊って行くわ」と入居に至った方もいる。本人の希望により、他県に墓参りの同行をしたこともある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士と一緒に過ごせる場所を作り、ご利用者同士で将棋をしたり、歌を歌ったり聞いたり、ご利用者数人で外出をしたりもしている。		
22		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も年賀状やイベントなどの案内を送付したり、懇親会などにおさそいしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人一人に確認している。また、ご家族にも今迄にしていたことや好きだったことをケアプランに反映させている。困難な場合は、今迄の生活歴やADLを考慮し、検討している。	入居前には必ず、家族や環境、職歴の他に趣味、嗜好も確認している。愛煙家は好きな銘柄、左党なら洋酒、日本酒の別、銘柄もチェックしている。職員には、いつもやさしく声をかけてくれる入居者でも、家族にはなぜ家に帰れないのかと激しく訴えており、うわべだけでは計り知れない「声にならない声」を察知する必要を痛感している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず生活歴などの情報をご本人・ご家族より聞いている。また、利用後もアセスメントとして趣味や嗜好、ニーズの把握に努めている。情報については、ケース記録・連絡ノートを活用して共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子がわかる様に介護記録を毎日記入している。また、介護記録を出勤時に読み、ADL・心身状態など把握を全職員が行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの意見や普段からの話し合いを基にモニタリングを作成し、ご本人の意向・思い・希望とご家族の思いに基づいた介護計画を作成している。	月1回のフロア会議前にケアマネジャーから、各職員に聞き取りを行い、それら情報を総合して本人の意向やADL(日常生活動作)の確認がされている。また、ADLの低下、突発事故の際には必ずモニタリングをしている。入居時は3カ月、その後は6カ月毎に見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を介護記録に記録している。介護計画に沿った記録を残す為に書式を変更したりしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に応じて、馴染みの病院を継続したり外泊をなど支援をしている。また、職員と一対一で遠出をしたり、数名で外出したりしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に近隣住民・学校関係者・協力医院・育児サークルの代表者などに参加して頂き、情報・意見交換をしている。また地域の敬老会に参加し、温泉旅行を楽しまれたりもする。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じて、かかりつけの病院を継続したり、職員から普段の様子を報告している。また、必要に応じて、協力医院に依頼し、往診にも来て頂いている。	かかりつけ医への受診は希望に応じて支援し、家族が同行できない場合は、職員が支援している。受診後の結果については、家族への報告、連絡を密に取り、情報の共用ができるように努めている。事業所の前には提携病院があり、入居者の日常の体調管理や緊急の対応もしており、家族アンケートでは高く評価されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院へ連絡し、外来時間に往診に来て頂いている。また、受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時、出来る限り毎日、お見舞いに伺い、医師・看護師と情報交換をして早期の退院に向けて連携している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を第一として、生活して頂いている。担当医に随時、生活の様子を報告し、指示を頂いている。また、ご家族には今後予想される状態をお伝えし、思いや意向を伺っている。	入居時に重篤化に伴う本人、家族の意向確認を行っている。ホームとして、契約書別紙に記載の定義はあるものの、個々のケースにより異なるため、常時看護のケアが必要となった段階で、医師の判断を基に家族に説明し、看護師でもある計画作成者と家族との話し合いの場を設け、家族に判断を委ねている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急講習の受講やAEDの取り扱いについて学んでいる。ゆうかでもAEDを導入し、いつでも使用できるようにしている。今後も消防署主催の救急講習を積極的に参加していきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、消防用設備の点検も業者に依頼している。今後も避難方法の勉強会や消防設備の使い方全員に周知していきたい。	年2回、火災訓練と消防設備点検を実施している。職員は救急救命講習も受けている。事業所独自の訓練へ地域の方の参加、協力の呼びかけは難しく、これからの課題と考えている。近隣の小学校の避難訓練には職員が参加している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・マナー研修を行い、言葉遣いについて気をつけている。また、記録等の個人情報取り扱いについても、常に書庫に保管している。	羞恥心やプライドなど、一人ひとりの尊厳を損なう事の無いよう、言葉かけや対応に気をつけている。そのための接遇やプライバシー研修等、勉強会も開催されており、日々の介護に活かされている。個人情報ファイル等は鍵のかかる書庫に管理されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴に限らず、ご本人の思いを聞かせて頂いている。職員からの押し付けにならないような提案として声をかけている。意思の伝達が出来ない方に対して、以前の生活暦やアセスメントを基に声をかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の希望・体調などを申し送り、職員間で共有し、一人一人のペースに合わせて、支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から行きつけている美容院や気に入っている理髪店への送迎を行っている。また衣類を着る時もご本人に衣類を選んで頂き、着て頂いている。また、介助が必要な方には、職員と一緒に選び、着て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物、食べたいものを伺い、準備や片付けも一緒にして頂いている。また、役割と違って片付けをされるご利用者もいる。	入居者にとって食事は大切な楽しみであり、開設時から食材選びには試行錯誤している。現在は一部を北海道から直送してもらっており、その他は随時、買い物に行っている。決まったメニューは無く、ある食材で何を作るかを入居者が職員と一緒に考え、準備や片付けも自分の役割と考えて積極的に行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶ポットをリビングに置き、常にお茶が飲めるようにしている。ご自分であまりとられない方には、好きな飲み物をその都度用意し、声をかけている。介助が必要な方には、介助を行い、必要に合わせてチェック表に記入している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日の始まりと終わりに声をかけ、一緒に行っている。また、ご自分からされる方もいる。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その都度、ご本人に声をかけ、トイレへ誘導している。また、ご本人・他利用者へ配慮し、小声で声をかけるようにしている。チェック表も活用し、排泄の間隔をわかるようにしている。	排泄チェック表を利用して、本人の生活のリズムに合わせて、時間を見計らって誘導するようにしている。本人が傷つく事の無いよう、さりげない言葉かけに注意している。各フロアには車椅子で入れるトイレが3箇所あり、トイレ内の可動式手すりは、麻痺の方にも対応できるようになっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中で、食物繊維の多い野菜を多く使用したり必要に応じて便秘薬を使われる方もいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中に希望されている方や曜日を決めている方・夜間に入ることで休める方には夜に入ったり、その方に合わせて入浴をして頂いている。	入浴は本人の習慣により違うので、朝、夜のどの時間でも希望に応じて対応している。風呂嫌いの方へも、その人に合った声かけや誘導をしながら支援している。風呂は入居者と職員の間でも良いコミュニケーションの場となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に眠そうにされている方には、布団で休んで頂いたり、就寝についても、時間は設けず、眠くなった時に休んで頂いている。また、自分から休みに行けない方には、声をかけ、一緒に居室へ行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をご利用者ごとにファイリングし、いつでも用法・副作用への確認をすることができるようにしている。今後、こういった薬なのか勉強会をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	写真が好きな方・歌が好きな方・外出したい方等、その方に合わせて役割や楽しみごとをしている。また、職員から書道やぬり絵をしたり、歌を唄ったり、好きな歌手の歌を流したりしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅へ送迎をしている方、カラオケ喫茶への送迎など希望に合わせて行っている。また、県外への外出の希望があつと時も勤務を調整し、出かけたこともあった。	以前通っていた美容院や、空き家になった自宅、カラオケ店への送迎など支援している。日常的に近所への散歩や、それぞれのお気に入りの喫茶店へも出かけている。現在、外出は個別になりがちで、出かける人、出かけない人の差があるため、全員で外出できる機会を考慮している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者によって、自己管理されている方・事業所で管理している方がいる。事業所で管理している方でも買いたい物があつたり、必要な時は、出せるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望で、電話を使われたり、番号入力が出来ない方には、職員が代行し、代わるようにしている。手紙も職員から声をかける時もあれば、ご利用者から希望されることもある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマス・正月などリビングや玄関に飾り付けなどを行い、季節感を出している。	日中の時間を過ごす居間は、決められた場所ではなく、人間関係や体調、気分に合わせて場所を選ぶよう、ソファの配置が考えられている。以前、事務所だった場所を改造して、現在居間として開放しており、一人になれる場所としてまた、将棋の好きな人同士がさしたりできる場所として使っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに置いている家具のレイアウトも必要に応じて変更し、寛げる空間作りに努めている。2階には、事務所のスペースを音楽が聴けたり将棋など好きなことが出来るような空間にしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具やじゅうたん等を持参して頂き、落ち着けるようにしている。また、ご利用者によっては、お孫さんの写真を飾られている方や、家族からの色紙を飾っている方もおられる。	入居前に職員が訪問し、居室へ持ち込む物品の相談を受けている。ベッドはホームで用意されているが自分の物を持ち込んでも良い。使い慣れた家具、じゅうたんの他、仏壇や位牌を置いている方もある。室内は写真や家族の寄せ書き等が飾られ、その人らしい雰囲気の内内となっている。各室には洗面台と鏡が設置されており日々の整容に役立っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすいように、名前やトイレなど大きく表示をしたり、レイアウトを工夫して安全な環境作りをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400752		
法人名	一般社団法人 日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホーム ゆうか		
所在地	愛知県名古屋市中区小田井2 - 425		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>全てのご利用者が、「自分らしい生活」を送って頂くために職員は、常にその方の意思を尊重し、尊敬と敬意の念を持ちながら、お一人お一人に関わらせて頂いております。「買い物へ行きたい」「散歩へ行きたい」「温泉へ行きたい」「喫茶店でコーヒーが飲みたい」「外食がしたい」等、その方がされたいことへの実現と満足をして頂くことをモットーに日々生活を共にさせて頂いております。また、時には、数名の方と外出したり、仲の良いご利用者と外出をしたり、書道や塗り絵・カラオケ・鍋パーティーなど、皆で出来ることもご提供させて頂き、ホスピタリティの精神の基、心のこもった、「おもてなし」と「言葉にされないニーズ」にもお応えをしていきます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ノーマライゼーションの考え方に基づき高齢者本人の意思を尊重し、誰もが自立した生活と自己実現が出来る地域福祉の構築を目指す。」という理念のもとに、地域の一員として地域福祉の向上に努めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への活動として、祭やイベントを開催し、地域の方々に参加して頂いている。また、自治会主催の祭にも積極的に参加している。近隣の小学校の社会見学も受け入れている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を地域の方々と一緒に開催している。参加者としてご利用者が出席することで、『認知症』というものが特別なものではないということを地域の方に理解していただくきっかけになっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で頂いた意見の中には、音楽会や育児サークルの方々による育児のアドバイスや歌の会を開催し、ご利用者や地域の方にも参加して頂いている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者や役職者が必要に応じて、市・区の担当者へ報告と情報共有に努めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に出入りが出来るようになっている。また、声かけやその他間接的に抑制してしまう行為も身体拘束に繋がるということを、入社時の研修にて指導するようにしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、日々職員間で情報を共有することにより、発生することがないように努めている。また入社時の研修に高齢者虐待防止関連法について学ぶカリキュラムが組まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	金銭管理に関して権利擁護制度を活用されている方がおり、職員は日常的に権利擁護に関し、制度にふれる環境にある。今後は勉強会などを通じて、さらに知識を深める必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	訪問の段階から契約・入居に至るまで同じ職員が関わり、顔なじみの関係作りに力を入れている。また、ご利用者・ご家族の不安解消の為に、じっくり思いを伺い、理解・納得して頂けるように事例を交えてわかり易い説明に心がけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日常の家族連絡を行い、来訪時はもちろん電話や手紙にて交流する事で、ご家族が意見を言しやすい環境作りにつとめている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションを取っている。また、要望を形に残しておく為に、ナイスアイデアボードを設置し、購入の希望や良いと思うアイデアを貼り出し、管理者や担当者が意見をまとめている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の目標を半期毎に設定し、その目標に対しての実績が直接賞与に反映されるようになっていく。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、研修担当者が新人・現任研修に携わっている。また、AED取り扱いのDVDを見たり、救命救急講習など外部研修にも参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの職員が集まり、ヒヤリハット報告書や事故報告書の意義について、高齢者に多い事故などを話し合っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から同じ職員が訪問し、顔なじみな関係を築き安心して頂けるようにコミュニケーションをとりながら信頼関係を築いている。また、入居に不安のある方には体験入居という方法も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせがあった段階から入居に至るまでは、何度もご本人・ご家族のもとへ足を運び、直接話を聞き、関係作りにつとめている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者・ご家族の思いを汲み取り、デイサービスのようには日中は事業所で過ごし、夜はご自宅で過ごす方もおられた。ご利用者・ご家族と一緒にどのようなサービスが良いか考えている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者から教えて頂くという気持ちを常に忘れず、日々向き合っている。外出や食事の後片付け等、一緒にさせて頂く中でさまざまなことを学ばせて頂き、信頼関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時や電話連絡を行う際に思いや要望を伺っている。ご家族の来訪時間も設けず、いつでも来訪して頂けるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族から今迄の生活歴を伺い、行きつけにしている喫茶店や床屋・美容室などに行けるように支援をしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士と一緒に過ごせる場所を作り、ご利用者同士で将棋をしたり、歌を歌ったり聞いたり、ご利用者数人で外出をしたりもしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も年賀状やイベントなどの案内を送付したり、懇親会などにおさそいしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人一人に確認している。また、ご家族にも今迄にしていたことや好きだったことをケアプランに反映させている。困難な場合は、今迄の生活歴やADLを考慮し、検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず生活歴などの情報をご本人・ご家族より聞いている。また、利用後もアセスメントとして趣味や嗜好、ニーズの把握に努めている。情報については、ケース記録・連絡ノートを活用して共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子がわかる様に介護記録を毎日記入している。また、介護記録を出勤時に読み、ADL・心身状態など把握を全職員が行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの意見や普段からの話し合いを基にモニタリングを作成し、ご本人の意向・思い・希望とご家族の思いに基づいた介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を介護記録に記録している。介護計画に沿った記録を残す為に書式を変更したりしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に応じて、馴染みの病院を継続したり外泊をなど支援をしている。また、職員と一対一で遠出をしたり、数名で外出したりしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に近隣住民・学校関係者・協力医院・育児サークルの代表者などに参加して頂き、情報・意見交換をしている。また地域の敬老会に参加し、温泉旅行を楽しまれたりもする。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じて、かかりつけの病院を継続したり、職員から普段の様子を報告している。また、必要に応じて、協力医院に依頼し、往診にも来て頂いている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院へ連絡し、外来時間に往診に来て頂いている。また、受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時、出来る限り毎日、お見舞いに伺い、医師・看護師と情報交換をして早期の退院に向けて連携している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を第一として、生活して頂いている。担当医に随時、生活の様子を報告し、指示を頂いている。また、ご家族には今後予想される状態をお伝えし、思いや意向を伺っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急講習の受講やAEDの取り扱いについて学んでいる。ゆうかでもAEDを導入し、いつでも使用できるようにしている。今後も消防署主催の救急講習を積極的に参加していきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、消防用設備の点検も業者に依頼している。今後も避難方法の勉強会や消防設備の使い方を全員に周知していきたい。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・マナー研修を行い、言葉遣いについて気をつけている。また、記録等の個人情報の取り扱いについても、常に書庫に保管している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴に限らず、ご本人の思いを聞かせて頂いている。職員からの押し付けにならないような提案として声をかけている。意思の伝達が出来ない方に対して、以前の生活歴やアセスメントを基に声をかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の希望・体調などを申し送り、職員間で共有し、一人一人のペースに合わせて、支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から行きつけている美容院や気に入っている理髪店への送迎を行っている。また衣類を着る時もご本人に衣類を選んで頂き、着て頂いている。また、介助が必要な方には、職員と一緒に選び、着て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物、食べたいものを伺い、準備や片付けも一緒にして頂いている。また、役割と違って片付けをされるご利用者もいる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶ポットをリビングに置き、常にお茶が飲めるようにしている。ご自分であまりとられない方には、好きな飲み物をその都度用意し、声をかけている。介助が必要な方には、介助を行い、必要に合わせてチェック表に記入している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日の始まりと終わりに声をかけ、一緒に行っている。また、ご自分からされる方もいる。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その都度、ご本人に声をかけ、トイレへ誘導している。また、ご本人・他利用者へ配慮し、小声で声をかけるようにしている。チェック表も活用し、排泄の間隔をわかるようにしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中で、食物繊維の多い野菜を多く使用したり必要に応じて便秘薬を使われる方もいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中に希望されている方や曜日を決めている方・夜間に入ること休める方には夜に入ったり、その方に合わせて入浴をして頂いている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に眠そうにされている方には、布団で休んで頂いたり、就寝についても、時間は設けず、眠くなった時に休んで頂いている。また、自分から休みにいけない方には、声をかけ、一緒に居室へ行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をご利用者ごとにファイリングし、いつでも用法・副作用への確認をすることができるようにしている。今後、こういった薬なのか勉強会をしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	写真が好きな方・歌が好きな方・外出したい方等、その方に合わせて役割や楽しみごとをしている。また、職員から書道やぬり絵をしたり、歌を唄ったり、好きな歌手の歌を流したりしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅へ送迎をしている方、カラオケ喫茶への送迎など希望に合わせて行っている。また、県外への外出の希望があった時も勤務を調整し、出かけたこともあった。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者によって、自己管理されている方・事業所で管理している方がいる。事業所で管理している方でも買いたい物があったり、必要な時は、出せるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望で、電話を使われたり、番号入力が出来ない方には、職員が代行し、代わるようにしている。手紙も職員から声をかける時もあれば、ご利用者から希望されることもある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマス・正月などリビングや玄関に飾り付けなどを行い、季節感を出している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに置いている家具のレイアウトも必要に応じて変更し、寛げる空間作りに努めている。2階には、事務所のスペースを音楽が聴けたり将棋など好きなことが出来るような空間にしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具やじゅうたん等を持参して頂き、落ち着けるようにしている。また、ご利用者によっては、お孫さんの写真を飾られている方や、家族からの色紙を飾っている方もおられる。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすいように、名前やトイレなど大きく表示をしたり、レイアウトを工夫して安全な環境作りをしている。		

(別紙4(2))

事業所名 街かどケアホームゆうか

目標達成計画

作成日: 平成 22年 3月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	新人研修以外にスキルアップしていく機会が少なく自らの努力にまかせているところがある。事業所全体として職員を育てる仕組みが必要と思われる。	それぞれの専任の役割を持ち、責任をもって業務にあたり、他者に指導ができるようになる	職員一人一人に事業所として必要な事柄に関して責任者という役割を設け、それを自らの選任業務とすることで、自身と責任を持てるようにする。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。